

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和6年度第1回さがみはら地域づくり大学運営委員会		
事務局 (担当課)	市民協働推進課 電話042-769-9225 (直通)		
開催日時	令和6年12月23日(月) 14時～16時		
開催場所	WEB 開催 (けやき会館 2階 中研修室)		
出席者	委員	5名 (別紙のとおり)	
	その他	1名 (指定管理者)	
	事務局	3名 (市民協働推進課)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	議 題 1 令和6年度の運営状況について (報告) 2 令和7年度の講座内容等について 3 その他		

主な内容は次のとおり。

議 題

1 令和6年度の運営状況について（報告）

指定管理者及び事務局より資料に基づき説明と報告を行った。

【主な意見等】

（竹田委員）

- ・ 地元企業の研修制度として参加した2名の反応はどうだったのか。

（指定管理者）

- ・ 初めは「地域の情報をさらに知りたい」という動機で受講したが、受講後は「自身が地域とどう関わるべきかを深く理解できた」との反応があった。同僚にも講座を勧めたいという話もあった。

（水澤副委員長）

- ・ 今年度は市民活動サポートセンターなど中間支援組織との協力が非常に強化されたと感じる。また、講座全体が非常に充実している印象を受けた。
- ・ 一方で、ユニコムプラザの「地域と大学の連携」という目的において、地域づくり大学と大学生との関わりがまだ弱い点が検討課題と思われる。

（指定管理者）

- ・ 大学や大学生との関わりは、運営側でも重要と考えており、現在、コーディネーターズサークル（地域づくり大学修了生の集まり。以下CC）と学生団体による連携企画を進行中である。

（水澤副委員長）

- ・ 自身が講座を担当した際、受講生の参加動機を事前にいただいた。受講生の関心事ややりたいことがわかり、講義が非常に進めやすかったので、継続してほしい。
- ・ 修了生への伴走支援活動ができればさらに良い。今後、さがみはら市民会議でも修了生の思いを具体的な形にできるようなコンサルティング支援の仕組みを検討していきたい。

（齋藤委員）

- ・ 今後、大学や若者との連携をどう中核化するかがポイントである。ユニコムの目的は、大学や若者を巻き込んだ拠点づくりであり、このビジョンは地域づくり大学とも同様だと考えている。
- ・ 若者を巻き込むには、講座の開催時期を検討したほうがよい。大学生や高校生が参加しやすいように、例えば6月の中間テストやレポート期間を避けた日程設計が必要ではないか。

(中邨委員長)

・行政のスケジュールや人員の制約もあり、若年層に向けた新規プロジェクトをすぐに進めることは難しいかもしれないが、準備を進めていくべきである。若者を巻き込むという視点で全体を見直していただきたい。

(榎本委員)

・他の委員と同意見である。ユニコム、地域と大学をつなぐというコンセプトを常に意識するべきだと感じた。

・特に受講者が少ない講座について、受講者層の志向を明確にすることが必要である。どの層をターゲットにするのか、講座設定の背景や考え方をはっきりさせるべきである。

(齋藤委員)

・CCの自立について、信頼できるリーダー的存在に声をかけ、運営の役割を担ってもらおうという形が考えられる。また、CC内に小さなサークルをいくつか作り、それぞれが自由に活動を展開できるようにすると良い。

・メンバーが累積するため、CCは3年間程度で卒業とするのも一案ではないか。

議 題

2 令和7年度の講座内容等について

指定管理者及び事務局より令和7年度の講座内容案について報告を行った。

【主な意見等】

(竹田委員)

・相模原青年会議所（以下、JC）は熱心に活動しており、JCの方々が講師として関わるなど地域づくり大学と結びつけば、JCの目標である地域活性化に貢献できる。地域づくり大学としても、つながりを活かして若者たちを巻き込み、地域活動を促進するような仕組みを作れると良い。

(齋藤委員)

・中高生向けの経営入門講座を数コマ設定するのも良い。講座形式よりも、地域の商店の手伝いやボランティアなどの実体験とその振り返りを組み合わせた形が効果的である。

・学生や若者たちが特に好むのは1日限りのボランティア活動である。NPOや市民団体は継続的な参加を望む一方で、若者にとっては短時間のほうが参加しやすい。短時間のボランティアでも貴重な体験となるので、地域に触れる経験を講座に組み込むのは有効である。

(水澤副委員長)

- ・市社協のボランティアセンターと市民活動サポートセンター、青少年学習センター、国際交流ラウンジが協働する「相模ボラディア」にて、「中高生夏休みボランティアチャレンジスクール」を実施している。中高生が地域活動団体でボランティア体験をするもので、こうした既存の取り組みも利用できるとよい。
- ・地域課題として、特に自治会の加入率の低下が重要なテーマとなっている。地域が抱えている課題を具体的に挙げ、それに対して「自分たちがどう関われるか」を考える機会があれば、若者が自分事として捉えやすいのではないか。

(中邨委員長)

- ・企業の社会人を地域づくり大学に取り込むためには、企業との連携まで考えて検討する必要がある。また、地域づくり大学が提供するプログラムや得られる経験について、評価を可視化していく必要がある。成果を論文や報告書として残すのも一つの方法だと思う。
- ・DXやAIを活用するための講座も検討すべきである。また、地域の防災については大きな注目テーマとなっているので引き続き講座に取り入れてほしい。

(榎本委員)

- ・ChatGPTのようなAIツールが誰でも使える時代だが、適切な使い方を学ぶ機会は少ない。実際に使ってみる体験型の講座を設ければ、若い世代の興味を引けるのではないか。
- ・相模原市の自治会加入率は低下傾向である。地域づくり大学で自治会をテーマに取り上げ、例えば「街路灯が切れているとき」や「ゴミ置き場にゴミが増えているとき」の対応方法といった、日常生活の中で誰もが関係する視点から、自治会がどう関わっているかを示すような内容が良い。
- ・また、外国人住民への対応も重要である。本市には約2万人の外国人がいるが、自治会に参加する人は少ない。言葉の壁などの課題を考える講座があっても良いのではないか。

(指定管理者)

- ・今年度はChatGPTを活用した動画作成講座を実施した。引き続き検討したい。

(齋藤委員)

- ・地域づくり大学がどの領域に焦点を当てているのか分かりづらい。また、公民館や市民活動サポートセンター、環境情報センターの活動と内容が重複しすぎないように、テーマを詰め込まない形が良いのではないか。例えば、来年は防災、次の年は外国人支援といった形で、毎年テーマを設定する方法も考えられる。
- ・地域づくり大学は10年目として、未来ビジョンを描くことも求められている。ユニコムプラザの目的と合わせて、未来に向けた希望を持てる場所として、地域づ

くり大学がその役割を果たすことが理想である。

議 題

3 その他

次回は2月を目途に第2回運営委員会を開催予定である旨説明した。

閉 会

以 上

さがみはら地域づくり大学運営委員会委員名簿

(令和6年12月23日開催)

	氏名	現職	備考	出欠
1	中邨 章	日本協働政策学会 名誉理事長 (地域づくり大学の学長)	委員長	出席
2	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 会長 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)		出席
3	水澤 弘子	特定非営利活動法人さがみはら市民会議 理事 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)	副委員長	出席
4	齊藤 ゆか	神奈川大学 教授 (講座の各分野における関係者)		出席
5	榎本 好二	市民局長 (市職員)		出席